

### 第7回市職労中央委員会を開催

10月20日に第7回市職労中央委員会を開催し、当面する諸課題に対する方針について議論を行ってきました。

冒頭、小田桐執行委員長より「賃金確定闘争、市長選挙と大きな2つの闘争を抱えている。政治闘争は地方公務員は制約が多いが、やれることをしっかりとやり切ることが必要。確定闘争について、人事院は2年連続の引下げ勧告をしたが、私たちの生活を守るため頑張っていこう。旭川市においては人員削減による超過勤務が増大しており新聞報道までされた。異常な時間外を強要されている。人員課題については重点として取り組んでいく」と挨拶がありました。

その後、経過報告では①2010市職労臨時大会において、旭川市長選挙では「西川まさひと」さんを、来春の統一自治体選挙では組織内市議会議員の「三井幸雄」「白鳥秀樹」両氏の推薦決定を行ってきた。②旭川市長選挙における投票事務について前回の参議院議員選挙同様に報酬引下げの説明があり、国政選挙の交付金が減額されたこととは関係ないと抗議をしたが財政当局の“国を基準に”という方針により認められなかった。動員にあたっては現場で強制されることのないよう申し入れをしてきた。③開村120年記念事業の動員については提案が遅く組合員への周知が全くできなかった。実際に職場でも混乱が生じたため、当局へ抗議を行ってきた。④超過勤務の新聞報道に対し、市労連・市職労で状況確認を行ってきた。引き続き“異常な”超過勤務を縮減していく取り組みを進める。

以上のことについて報告をし、参加中央委員からは…  
「超過勤務が増大していて体調を崩す組合員も増えている。長時間労働が続くことは身体にも悪いし、メンタルヘルス悪化や過労死の恐れすらある。また『超過勤務をしなくてはダ

メ』『残らない人はサボっている』というような帰りにくい職場の雰囲気もあるのではないかと。根本的な対策を求めると意見がありました。

つぎに、協議事項として①2010賃金確定闘争の推進について②旭川市長選挙闘争の推進について③選挙管理委員会の発足について…の3項目にわたり提起してきました。

#### (1) 2010賃金確定闘争について

人員課題や独自削減、臨時・非常勤職員の待遇改善など多くの課題があるが、市労連に結集していく。

#### 【重点課題】

- ①生活を維持・防衛できる賃金水準の維持・改善
- ②2010年度内での独自削減の廃止
- ③「制度調整方式」による事実上の不利益遡及阻止
- ④56歳以上で行政職給料表6級以上の在職者に相当する職員の定率引き下げ反対
- ⑤臨時・非常勤職員の待遇改善
- ⑥一般職5級到達に向けた協議の再開
- ⑦各種休暇制度の充実、長時間勤務・サービス残業対策、メンタルヘルス対策の充実、仕事と家庭の両立支援の充実
- ⑧再任用制度の改善・充実

#### 【2010賃金確定闘争日程】

10月25日(月) 要求書提出  
11月8日(月) 回答指定日  
道内統一日程に基づき、11月8日(月)～17日(水)を重点交渉期間として設定する。さらに、市職労としても組合旗掲揚やステッカー闘争、状況によっては11月17日(水)～

#### 西川まさひと個人演説会(予定)

- 11月1日(月) 近文地区・春光台地区・江丹別地区
- 11月2日(火) 未広地区センター(未広2条4丁目 18:00～)  
親和会館(未広東3条5丁目 18:20～)
- 11月3日(水) 東旭川地区(18:00～)

超勤拒否・出張拒否を設定していく。

#### (2) 旭川市長選挙闘争の推進について

11月7日執行の旭川市長選挙では推薦している西川まさひとさんの勝利に向けた取り組みを進めていく。集会参加や応援カードの取り組みをしっかりとしていく。

#### (3) 選挙管理委員会の発足について

11月末日で現執行体制の任期満了となるため、選挙管理委員会を発足させ役員改選を行っていく。

#### 【質疑・意見】

◎このように重たい独自削減を5年に渡って行っているところは多くない。人件費が必要以上に削減されている。独自削減の課題、不利益遡及をさせないことをしっかりと取り組んでほしい。

→5年前に独自削減の提案を受けた際、全道から抗議電や激励電があった。それくらい重たいことであった。他の自治体では独自削減が終了し、今もなお道内の半数近くが独自削減をされているが減少傾向にある。人件費が財政圧迫の原因ではないことは明らかである。重点的に交渉を進めていく。また、56歳以上一律引下げは、これを許すと来年以降組合員層にも影響があるのは明らかであることから、課題としているものである。人員課題とともに進めていきたい。

以上、確認された方針に基づき、取り組みをすすめていきます。

まじめに、真剣に、さらなる飛躍 旭川

MASAHITO NISHIKAWA

# 西川まさひと

